



—いのち、暮らし、平和が大事！—
日本共産党京都市議会議員

山本 陽子 活動ニュース

VOL.60
2020年8月30日号

〈連絡先〉
日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

敬老乗車証制度・老人医療、 児童の虫歯治療の無償化の見直しやめて！

□ コロナの感染拡大では、市民一人ひとりの異なる状況に対するきめ細かなケアが重要であることが再認識されました。

そんな最中、京都市は『持続可能な行財政審議会』を開催(7/2、8/17)、「社会福祉を含むあらゆる市民サービス」を検証すると言ひ、敬老乗車証などの制度をやり玉にあげています。「持続可能な財政を維持するため」と言ひますが、サービスの廃止・縮小によって市民の生活が持続しなくなる可能性についてはおかまひなしです。

早速、8月7日の産業交通水道委員会で、敬老乗車証制度は高齢者の健康や福祉の増進のみ

ならず、市民の足を守る交通局にとっても40億円もの貴重な運賃収入になっていることを質しました。するとなんと敬老乗車証制度の予算のほぼ8割が、保健福祉局から交通局の収入に置き換わり、コロナ危機のもとで公共交通を守る財源になっているというのです。そのことはまったく触れずに、敬老乗車証はただお金がかかると審議が行われています。

山科を走る京阪バスには敬老乗車証運賃分で6億円の交付がされています。これがもし、なくなれば京阪バスの経営の危機にもなりかねません。見直しやめて！を京都市に求めていきましょう。



リモート授業より、20人程度の少人数学級の実現へ！

➔ の夏、二つの集会に参加。その一つが『コロナ感染下でのICT教育の在り方を考える』でした。コロナ休校中にインターネットでの「リモート授業」を求める声もありましたが、どう考えればよいのでしょうか？

児美川孝一郎さん(法政大学教授)は、生徒が一人一台のコンピュータをもち教科学習の「個別最適化」を図るという方向性を経済産業省が主導している、と言ひます。教育関連企業などによる個別の通信教育みたいなもので、これは大企業が巨額の儲けを得る手段を得るため教育

に口を出してきているということです。

児美川さんは「学びの条件の自己責任化で、格差がさらに拡大する」「公教育が解体し、市場化・民営化が進行する」と警鐘を鳴らしていました。

うちの子は、コンピューター教育になればたちまち取り残されていくことになると思うし、学校があってこそ楽しい子ども同士の経験が軽視されることにもなりかねません。一番大切なのはやはり、感染防止のためにも、先生を増やし少人数学級を実現することではないでしょうか?! 署名を広げていきましょう!



子どもの世界もいろいろ試練があります。乗り越えていく経験が大切だと感じます。親も大変だけれど、でも、子どもは想像以上におもしろい! エネルギーでいっぱいです。



「短い夏休みだから、計画的に宿題しような」と言ひて鼓舞していたのに、一緒にやろうとしたら、結局親子ゲンカに発展してしまひ、どうしたものか……。猛暑の中の少年野球の練習は身体がついていかず、ぼちぼちの参加。本人があきらめないことをまだ良し、としましよ。

お姉ちゃん、最終日に平和ボスターの課題を仕上げ、夜に工作の仕上げをし、ギリギリの二期登校準備でしたが、弟君は案の定、朝の登校直前に「学校行かへん! 宿題全部してへんから先生怒られる」と泣きわめく始末でした。「宿題やってから行く」と言ひうので登校を遅らせて、残っていた漢字を書きはじめましたが、終わるはずもなく、途中から心も落ち着いてきたのか、一人で登校でしていきまひました。学校に連絡し、教頭先生が「心配しなくていいから安心して来てね」と言ひてもらひたこともあつたのでしよ。

ママチャリ子育て日記
二学期初日



□ コロナ禍で始まった、「子ども食堂」ならぬ「子ども100円弁当」販売。大宅で取り組まれている「このまち食堂&夏休み宿題おうえん」に、子どもと一緒に参加をさせていただきました。

小3の男の子が「家で一人なので来ました」と。また地域の方が声かけて、在日外国人の小2の男の子もきていました。字を書くことが大変そうです。今日の100円弁当は野菜たくさんの焼きそばでした。

家庭で孤立しがちな子どもたちを、学校でも地域でも、どのように見守り育てていくかが課題になっています。地域の子ども食堂にも限界があります。学校の給食をしっかり実施し、中学校ではすべての生徒に温かい給食を!

